

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 2月 1日

事業所名 門真市障がい者福祉センター放課後等デイサービス すてっぷ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用児に合わせ部屋の物品等の配置を変えている。活動スペースが確保されている。	
	2 職員の配置数は適切である	○		人員配置基準は満たしている。	より良い支援を提供していくため、人材を確保していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		館内の部屋や廊下に段差が無く手すりが設置されている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		様々な分野での目標を掲げ、朝礼、終礼、ミーティング等で目標の設定と振り返りを行い改善に努めている。	引続きPDCAサイクルについての研修を行っていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎年度「保護者向け評価表」やその他アンケートの内容を踏まえ改善につなげている。	評価表やアンケートの結果を職員に周知し改善に向け話合っている。今後も意向等を把握し業務改善に努める。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		毎年度、法人ホームページで評価結果を公表している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後、第三者による評価の実施を検討していく必要がある。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年間で毎月のテーマを決め研修を行ったり、ケース発表を行い職員員の質の向上に努めている。	今後も外部研修に積極的に参加し内部研修も職員に必要な内容を取り入れていく。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的な保護者との面談を行い、ニーズや課題を確認し個別支援計画書に反映している。	今後も保護者との面談により課題やニーズの聞き取りを行い職員間で話し合いより良い計画書を作成していく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			今後も必要に応じてアセスメントの見直しを行い、1年以上はアセスメントの見直しを行う。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員間で話し合いをし、活動の立案を行っている。	ケース会議を引き続き定期的に行い、より良い活動プログラムに繋げる。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用児によっては繰り返しが必要と考えている。様々な専門職の意見を取り入れ工夫している。	引き続き、内外部の研修に参加し、職員の視野を広げる。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日、休日、長期休暇においてそれぞれ支援の流れを検討し実践している。	長期休暇前に活動内容について話合う時間をもうける。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		利用児によって個別や集団活動を組み合わせ計画を作成している。	今後も利用児によって必要であれば個別や集団活動を取り入れた計画を作成していく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		利用児一人一人の支援内容が記載されたカードを用いて、職員間で話し合う等し、確認しながら準備を行っている。	継続し支援内容をすぐに確認できるように事前準備を行う。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼で支援の振り返りを行い職員間で話し合った内容を共有している。	継続し終礼時に振り返りを行う。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎回経過記録に記載し内容を記録している。また記録をもとに1ヶ月をまとめた記録を作成している。	記録をもとに職員間で話し合う機会を設け支援内容の変更等に努める。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		最低半年に1回のモニタリングや毎回の送迎時等に情報を得るようになっている。	今後も定期的にモニタリングを行う。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		活動の組み合わせは行っている。	今後、偏りが生じないように活動内容を組み合わせしていく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		会議が行われれば、その利用児の状況を把握している者が出席している。	今後も相談支援事業所と連携を図りながら開催される際は、積極的に参加していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校との連絡や送迎の調整などは、支援学校によりばつきがあるが、随時情報共有に努めている。	学校によっては、連絡手段が家族経由になり直接事業所とのやりとりを控える学校があるのが現状、今後情報共有については、工夫が必要である。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		保護者を通じて連絡体制はとっている。また場合によっては病院へ同行している。	各専門の主治医や病院等に変更がないか面談時等に聞き取りを行う。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		現在は、保護者や相談支援員からの情報のみとなっている。	保護者からの要望や事業所として情報が必要であれば、保護者に確認したうえでアポをとっていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			保護者からの要望があれば、電話などで情報を提供していたが、今後はこちらから保護者に意向を確認する。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		年間を通して児童発達支援センターの連絡会や研修に参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			現在、地域の児童クラブとの交流を行う為、双方で計画を進めている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			今後、情報収集を行い現状の把握に努める。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		経過記録以外にも送迎時や、気になる事があれば電話連絡を行い、共通理解に努めている	日々の申し送りや面談等により児童の発達の状況や課題について、更に密に保護者との共通理解に努める。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			現在、職員に関してペアレントトレーニングについて、浸透が不十分であり今後研修などで理解を深めていけるよう努める。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		直接、説明している。	今後も変更が生じる際は、速やかに保護者へ説明を行い職員にも周知していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者が抱えている悩みについて相談を受けた際は内容によるが助言を行うようにしている。	様々な相談内容に対応できるよう職員の知識や技術を高めていくため内部、外部の研修に積極的に参加していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		行事ごとに保護者会を開催したり、生活介護との合同の行事で交流できる場を設けている。	今後も日数を複数選択できるようにし就労している保護者が参加しやすいように対応していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情を受けた際は、職員間で話し合い出来る限り直接出向き謝罪と説明を行っている。	今後も迅速かつ適切に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、機関誌を発行またホームページにブログを掲載し活動の様子などを発信している。また行事やその他必要事項については、お知らせを配布している。	継続し、毎月の機関誌の発行、ホームページのブログの掲載とお知らせの配布を行っていく。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報については、漏れないよう取り扱いに十分注意している。また定期的に職員に対し注意喚起を行っている。	定期的に職員に対し注意喚起を行う。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		申し送りができない利用児に関しては文章や電話等で伝えている。	更に特性に合わせ情報のやり取りを工夫していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		年1回ふれあい祭りを開催し地域の小学校へチラシを配り、また地域の方のボランティアを募り地域に開放した行事をしている。	今後も地域に開放した行事を開催し多くの方に来ていただけるようにしていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	職員に周知を行っているが、保護者には説明が不十分になっている。	保護者会の開催時等に説明を行い保護者の意見も取り入れて行けるように行っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	毎月1回は、非常時を想定した訓練を行っている。また年2回館内全体の消防訓練に参加し他の職員の対応受け入れの訓練も行っている。	今後も月1回の訓練を実施し年2回の館内全体の消防訓練に参加し応援体制をとれるようにしていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	毎年大阪府の研修に参加し、参加職員が事業所内で研修を実施している。	継続し、大阪府の研修へ参加し参加職員による事業所内研修を実施する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	保護者に説明し身体拘束に関わる同意書ももらっている。また個別支援計画に内容を記載し説明を行っている。	今後、職員で討議し身体拘束の解決に向けた話し合いを行い保護者と相談していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	現在、食物アレルギーに関しては、保護者からの聞き取りを行っている。必要な場合は医師の指示書を受け取るようにする。	重篤なアレルギー症状が起こる危険性がある利用児に対しては、必要に応じ指示書をもらうようにしていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ファイリングし職員が共有できるようにしている。また安全管理委員会で集約し担当者で話し合い職員へ周知している。	ヒヤリハットの共有とヒヤリハットの提出を促すようにしていく。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和2年 2月 1日

保護者等数(児童数)25名 回収数17名 割合 68%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	17					
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	17					
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	17					
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	17					
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	16	1				利用児によっては、定着をはかるため にある程度繰り返し行う必要があるが、 放課後や学校休日等に応じて工夫して 活動を行う。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	7	6	1	3	・よく分かりません ・?	現在、児童クラブとの交流に 向け進めている。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	17					
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	17					
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	17					
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	14	1	1	1	・保護者会は開催して下さって ますが、参加が難しいのが残念で す ・分かりません	なるべく参加しやすくするた め、今後行事や参観の日 程を複数設定していく。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	16	1				今後も改善に向けた具体的 な対応策等を迅速に説明で きるよう努めていく。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	17					
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	16	1				継続して機関誌の発行や ホームページのブログの更 新を行う。行事予定などは、 引続きお知らせ等で発信し ていく。
14 個人情報に十分注意しているか	17						
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	16		1			各マニュアルの見直しを行 い、保護者への説明を保 護者会などで実施する。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15	1		1	・?	毎月の訓練を継続して行 い、利用児ができるだけ 偏りなく参加できるよ うに工夫していく。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	17					
	18 事業所の支援に満足しているか	17				・皆さん本当によく やってくれています	

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。